

2024_0130「江の島の蜃気楼（写真）」日々の理科 3463号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

早朝の小田原駅で「四季島」を見たあと、大磯駅で途中下車しました。ちょっと朝の海岸と、遠くの江の島を見たかったからです。砂浜の軽石を探すのも目的でした。大磯海岸からは、晴れていれば富士山も見えるのですが、この日は雲が多く、残念ながら見えませんでした。

江の島はよく見えました、その江の島の姿が奇怪でした。水平線から江の島がわずかに浮いて見えるのです。肉眼でも双眼鏡でも写真でも同じように見えたので、錯覚ではなく実際に光学的な現象でした。蜃気楼に間違いありません。写真をよく見ると、江の島の右手前の岩礁も浮いて見えます。この岩礁は茅ヶ崎沖にある「姥島（うばじま）」という岩で、別名「烏帽子岩（えぼしいわ）」といいます。大磯海岸から見るとまさに「烏帽子」の形に見えます。江の島のすぐそばにあるように見えますが、実は江の島よりもずっと手前にあります。

江の島も浮いて見え、烏帽子岩も浮いて見えるので、海面付近の水温や気温が広範囲に蜃気楼の条件に合っていたのでしょう。また次回も同じ場所から観察したいと思いました

(2024年1月下旬／大磯海岸より)

